

中 学 校

平 成 13 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

社	会
---	---

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成13年度

教 育 研 究 員 名 簿 (社 会)

〈地理的分野〉

区市町村名	学 校 名	氏 名
品 川	荏原第六中学校	坂 本 教 喜
中 野	北中野中学校	龍 野 真
稲 城	稲城第六中学校	◎石 村 繁 樹
昭 島	多摩辺中学校	小 玉 容 子
東 大 和	第一中学校	芹 沢 敏 光

〈歴史的分野〉

区市町村名	学 校 名	氏 名
港	高陵中学校	細 谷 晋 一
墨 田	錦糸中学校	根 本 祥 子
世 田 谷	芦花中学校	○菅 野 茂 男
板 橋	志村第一中学校	池 田 博
葛 飾	常盤中学校	宇田川 俊 彦
江 戸 川	東葛西中学校	破 毛 恒 男

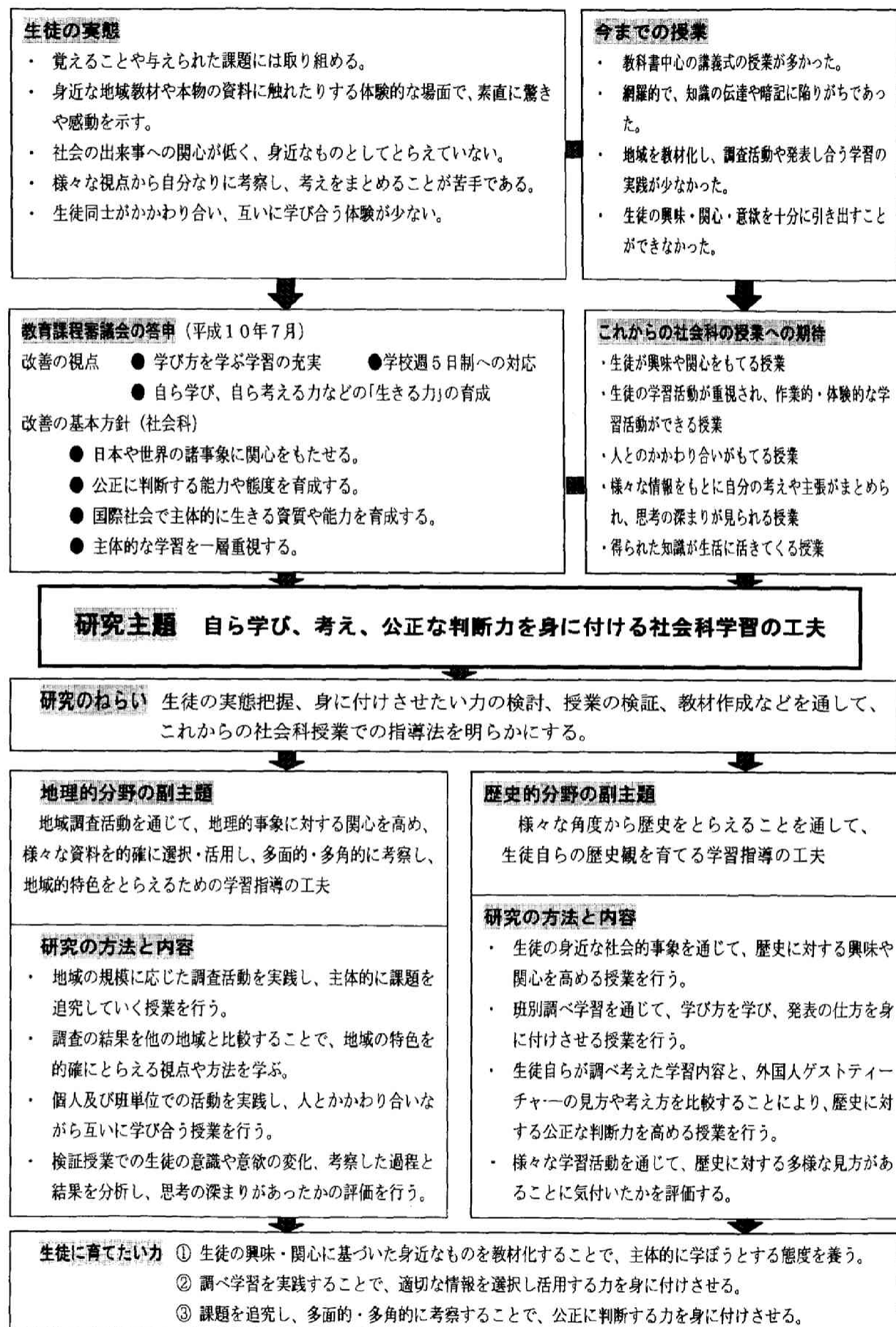
◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 統括指導主事 鈴 木 文 雄

目 次

目 次	1
I 全体の研究構想図	2
II 研究主題及び主題設定の理由	3
III 地理的分野の研究内容	4
1 地理的分野研究副主題及び副主題設定の理由	4
2 (1) 検証授業A・単元名「身近な地域」	5
(2) 単元設定の理由	5
(3) 単元の目標	5
(4) 学習指導計画	6
(5) 指導上の留意点	8
(6) 本時の授業	9
(7) 本時の目標	9
(8) 本時の展開	9
(9) 単元の評価の観点	10
3 (1) 検証授業B・本項目「東京都」	11
(2) 本項目設定の理由	11
(3) 本項目の目標	11
(4) 学習指導計画	11
(5) 本時の目標	14
(6) 本時の展開	14
(7) 本時の評価	15
(8) 授業の考察	16
4 地理的分野の研究のまとめと今後の課題	17
IV 歴史的分野の研究内容	18
1 歴史的分野研究副主題及び副主題設定の理由	18
2 (1) 検証授業C・単元名「日本の大陸侵略」	19
(2) 単元設定の理由	19
(3) 単元の目標	19
(4) 学習指導計画	19
(5) 本時のねらいと展開	21
(6) 授業の考察	23
3 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題	24

Ⅰ. 全体の研究構想図



Ⅱ 研究主題及び主題設定の理由

研究主題

自ら学び、考え、公正な判断力を身に付ける社会科学学習の工夫

新学習指導要領の完全実施を間近に控え、社会科はその指導観、授業観のとらえ直しが迫られている。今回の改訂においては、①内容の厳選、②学び方を学ぶ学習の充実、③社会の変化への対応、④3分野を関連付けて扱う項目の設定が方針として示されている。そこで私たちは授業の在り方を今まで以上に考え直していく必要がある。

従来の社会科の学習は、知識詰め込み型の学習、教科書の記述を学習させる網羅型に陥りがちであった。また、地域の教材化、調査活動などの実践が模索はされていたが、それが十分であったとは言い難い。生徒の実態に即して言えば、覚えることや与えられた課題には取り組める、身近な地域教材や本物の資料に触れたりする体験的な場面で素直に驚きや感動を示すことができるなど、評価できる部分があるものの、互いに学び合ったり、様々な視点から自分なりに考察し、考えをまとめ、発表したりすることは不十分ではないかと思われる。

私たちは、生徒自らが学び、考えることができるようにするために、作業的・体験的な学習活動を取り入れた授業を行うことが大切であると考えた。そして、生徒は、学習の過程で教師や生徒同士とかかわり合い学び合いながら社会的事象を様々な角度から考察・理解し、社会的事象の見方や考え方を身に付けることができるととらえた。

このように、生徒の主体的な学習を重視し、生徒同士の学び合いを通して社会的な事象の見方や考え方を育てることによって、公正な判断力を身に付けることができるのではないかと考え、上記の課題を設定した。

Ⅲ 地理的分野の研究内容

1 地理的分野研究副主題及び副主題設定の理由

地域調査活動を通じて、地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を的確に選択・活用し、多面的・多角的に考察し、地域的特色をとらえるための学習指導の工夫

21世紀を迎えた今日、我が国は国際化、情報化、高齢化など社会の変化が著しく進んでいる。中央教育審議会、教育課程審議会の答申を受けて、来年度から完全実施される新学習指導要領でも社会の変化への対応や、生涯にわたって学び続ける能力や態度の基礎を培うための、学び方を学ぶ学習の充実が重視されている。

これまでの社会科学習では、「教科書中心」、「講義式」、「網羅的」、「単なる知識の詰め込み」などになりがちであり、そしてその中で、生徒の興味・関心を十分に引き出すことができずに多くの批判を受けてきたが、その改善の取り組みは必ずしも十分ではなかった。したがって、従来の「指導観」、「授業観」などの大幅な見直しが迫られている。

地理分科会では、先に述べたような社会科の現状を踏まえて、地域調査活動を通じて、地理的事象を多面的・多角的に考察することで、地域的特色をとらえることが、生徒の社会認識を高め、公正な判断力を身に付けるために特に有効であると考え上記の副主題を設定した。

従来、身近な地域の学習というと、通りいっぺんの読図指導ですませてしまうケースが多く、授業の中で生徒が実際に地域に出て調査活動を行い、それをもとに生徒自ら課題を設定し、それを追究・考察して、生徒の思考の深まりを求めるような授業はほとんど行われていなかった。しかし身近な地域の学習は、生徒が主体的に活動を進めるなかで、身近であるだけ、より具体的に実感として地理的事象をとらえることができ、生徒の思考の広がり、深まりそして社会認識を高めることが期待できる。

具体的な研究の方法・内容としては、生徒が調査活動を実践し、主体的に課題を追究していく授業を行うことを通して、地域の特色を的確にとらえる視点や方法を学ぶことを重視した。また、人とのかかわり合いながら互いに学び合う授業を行うことを通して、学習の深まりをねらった。さらに、生徒自ら課題を設定し追究・考察した内容をコンピュータ等を利用しながら外部へ向けて発信し、地域社会への提言を行い、生徒に地域社会の発展に努力する姿勢を身に付けさせることも重視した。

2 検証授業 A

(1) 単元名 「身近な地域」 新学習指導要領 (2) 地域の規模に応じた調査 ア 身近な地域

(2) 単元設定の理由

観察や調査などの活動を通して行われる身近な地域の学習は、実際には調査ができない地域の学習への転移も期待できるため、問題解決的な学習を進めるに当たっては有効な学習であると言われている。しかも、「地域で学ぶ」という方法概念と「地域を学ぶ」という目的概念の両方ともに満足させることができるということもあって、学習指導要領の中でも特に注目されている単元のひとつである。ただ、様々な理由からだろうが、目的よりも方法が優先されてしまい、地域の学習と言うよりも地図の見方の学習になってしまっているのが現状ではないだろうか。

そこで、この単元の目的である、身近な地域を知り、関心をもち、地域に対して愛情を抱かせる学習を見直してみる必要があると考えた。人と人、人と地域、地域と地域との関係が希薄になってきたと言われて久しい今こそ、社会認識の第一歩である地域の学習が必要なときであると考えた。

(3) 単元の目標

1. 身近な地域の学習を通して、地図や資料の有効な使い方の基礎を身に付けさせ、地理的な見方や考え方を養う。
2. 身近な地域の学習を通して、生徒が生活している土地に対する理解と関心をより深めさせ、地域の一員としての誇りや愛情を養う。
3. 身近な地域の学習を通して、生徒自らに学習課題を設定させ、意欲的に学習に取り組ませることにより、生徒一人一人の問題解決能力を育てる。
4. 観察や調査などを通して、身近な地域の特色や新たな課題を発見させ、地域の未来を志向する力を育てる。
5. 学習の成果を表現する活動を通して、地理的なまとめ方や発表方法の基礎を身に付けさせる。



(4) 学習指導計画(11時間扱い)

時	学習内容	学習活動	学習活動への支援	資料等
第1時	導入	① 学区域内の様子を写真などで見て概観する。 ② 通学路付近の様子を地図に描く。	① デジカメ写真などをプロジェクターで見せる。	① デジカメ写真 ② 画用紙
第2時	地図の読みとり方	① 自分の描いた地図と地形図を比べ、地形図の表記の仕方を学ぶ。(縮尺、方位、記号、等高線)	① ワークシートを用意し、地域調査に必要な範囲を学習するにとどめ、読図指導に深入りしないようにする。場合によってはインターネットなども活用する。	① 1/25000 地形図 ② ワークシート ③ ホームページ

※第3～8時は、地域の特色に応じて次の2つから選択。

a あらかじめ大テーマごとにグループ分けする方法(検証授業)

第3時	野外観察準備	① グループ分け ② ルートマップ作成	① 生徒の興味・関心を喚起できるように助言を心掛ける。 ② ルートマップの作成に当たっては大テーマの追究に適した地域の調査を助言する。	① 1/25000 または1/5000 地形図 ② 地域調査の課題例
第4時	野外観察	① 自分たちの大テーマに基づき、自分の追究してみたい課題を発見する。	① 安全面、生活面などに十分注意してフィールドワークをさせる。	① デジカメ等 ② 1/25000 または1/5000 地形図
第5・6時	調査課題設定	① 野外観察の結果を地形図に書き込み、その結果をもとにして調査課題を設定する。	① 調査課題が決まらない生徒へは興味・関心を引き出す工夫をする。 ② 調査課題が早く決まった生徒は図書室の文献やインターネットを活用して予備調査を行わせる。	① 調査テーマ設定用紙 ② 質問作成用紙 ③ 返答予想用紙 ④ 図書室・パソコン室

第 7 ・ 8 時	地域調査	① 自分の設定した課題を、聞き取り調査、統計資料・文献資料の調査、インターネットなどを活用し調べる。	① 調べる内容によって効果的な調査ができるように調査方法について助言する。	① デジカメ等 ② 生徒訪問のお願い ③ パソコン室・図書室 ④ 自治体発行統計資料
-----------------------	------	--	---------------------------------------	---



b 学区域を班単位で分担し共通の調査項目を調べる方法

第 3 時	野外観察準備	① 調査地域の分担 ② ルートマップ作成	① 分担して行う調査（観察）のねらいを十分理解させる。 ② ルートマップの作成に当たっては効率的なルートになるよう配慮する。	① 1/25000 または 1/5000 地形図 ② 地域調査の課題例
第 4 時	野外観察	① あらかじめ定められた項目を調査してくる。 ○共通調査項目 学校から半径 200m 以内の建物の数、コンビニ・大型スーパー・ファミリーレストランの数と分布、貸し駐車場（100円パーキング）はあるか、鉄道・路線バスの経路	① 安全面、生活面などに十分注意してフィールドワークをさせる。	① デジカメ等 ② 1/25000 または 1/5000 地形図

第 5 ・ 6 時	調査課題設定	① 分担した調査結果を共通の地図へ書き込む。 ② まとめた野外観察の結果をもとにして調査課題を設定する。	① 調査課題が決まらない生徒へは興味・関心を引き出す工夫をする。 ② 調査課題が早く決まった生徒は図書室の文献やインターネットを活用して予備調査を行わせる。	① 調査結果集約用地図 ② 調査テーマ設定用紙 ③ 質問作成用紙 ④ 返答予想用紙 ⑤ 図書室・パソコン室
第 7 ・ 8 時	地域調査	① 自分の設定した課題を、聞き取り調査、統計資料・文献資料の調査、インターネットなどを活用し調べる。	② 調べる内容によって効果的な調査ができるように調査方法について助言する。	① デジカメ等 ② 生徒訪問のお願い ③ パソコン室・図書室 ④ 自治体発行統計資料

※ 以下 a、b ともに共通

第 9 ・ 10 時	学習のまとめ～発表準備	① 地域調査の結果を所定の用紙にまとめる。 ② 地域の未来予想または地域への提言を作成する。	① まとめる時には地理的手法を用いるよう指導する。 ② 発表を聞く人から見て分かりやすくかつ簡潔なまとめ方をさせる。	① 発表用紙
第 11 時	学習発表会（本時）	① ポスターセッション方式によりお互いの学習の発表を聞く。	① 発表の方法が上手かどうかだけでなく、地図やグラフなどを上手に活用しているかなども注意させる。	① 図書室 ② 評価カード

(5) 指導上の留意点

- 第1時導入の地域を概観させる学習では、地域調査学習への意欲を喚起することを目的とし、写真等を見る学習の他、クイズ形式での学習や屋上から地域を概観する学習などを適宜選択し効果的な学習を展開する。
- 第2時地図の読みとり方の学習では、地形図の読み方の学習に深入りせず、地域観察や地域調査に必要最低限の知識を学習する程度にとどめる。
- aの方法のグループ分けに当たっては地域の特色に応じて、自然・商業・集落・交通・歴史・その他のように適宜大テーマを設定する。
- 野外観察や地域調査に当たっては、事故等生徒の安全確保と訪問先への事前連絡、お

札などについても十分指導しておく。

- 社会科地理的分野での学習であることを念頭に置き、地域を学ぶことと地理的手法の学習であることを重視する。特に地理的手法については、地図に表すこと、グラフ化すること、他の地域や昔と比較することなどの手法を用いらせるよう指導する。
- 学習の導入や調査方法の学習などの場面において適宜パソコンやインターネットを活用させ、効果的な学習をねらう。
- 検証授業においては、都道府県の学習へつながるよう、地域の様子を示すデジカメ写真、生徒のまとめたポスター、地域の未来像・希望カードなどをホームページなどで公開できるよう工夫する。

(6) 本時の授業 ポスターセッションによる学習発表会 (第11時)

(7) 本時の目標

1. 自己の学習の成果を他者へ発表することを通して、次のような点を深める。
 - 自分たちの調査した学習のまとめ。
 - 効果的に発表するプレゼンテーションスキル。
 - 地図、グラフなどによる地理的な表現力。
 - 質問への応答を通しての今後の学習課題。
2. 他者の発表を聞くことにより、自己の調査したこと以外の地域社会の姿をとらえる。
3. 「地域への希望」「地域の将来像」を考えることを通して、地域社会へ積極的にかかわる生徒を育てる。
4. 学習のまとめ、他者の発表への評価を通して、学習の成果と到達点、課題点をつかませる。

(8) 本時の展開

時	学習活動	学習活動への支援等	資 料 等
準備 10 分	① グループごとに発表の準備をする。(グループ内で発表の順番を前半・後半に分ける) ② グループ内で発表のリハーサルをする。	① ポスターを貼る場所が隣のグループと近すぎないようにさせる。 ② 全員が必ず発表に参加するように工夫させる。	① 発表方法チェックシート ② 発表用紙・補助資料
発表 30 分	a 発表をする ① 発表用紙を中心に補助資料等を使って3分程度にまとめて分かりやすく発表する。	① 要点をしぼって発表させる。 ② 地図、グラフ、統計などをもとにわかりやすく発表させる。 ③ 未来予想や提言は、調べたことをもとにして適切に考えさせる。	① 評価カード ② 未来予想カード ③ 提言カード

	b 発表を聞く ① 他のグループの発表を聞く。 ② 他のグループの発表をもとに地域の未来予想または地域への提言を考える。	① 他のグループの発表を聞き、その内容やまとめ方、方法などを評価カードにより評価させる。	① 評価カード
まとめ 10分	① 「(自分の住む地域)は将来〇〇〇〇〇になるであろう」「(自分の住む地域)を〇〇〇〇〇な街にしていきたい」などの自分の住む街の未来を予想する。または地域への提言をする。 ② 自分の考えた予想、提言を発表する。 ③ 単元の学習を振り返り自己の学習を評価する。	① 他のグループの発表をもとにした地域の未来の予想、地域への提言をさせる。 ② 自分の考えた予想、提言を発表させ、いろいろな意見のあるとき気付かせる。 ③ 自己評価カードにより、単元の学習を振り返らせ、学習の成果と課題に気付かせる。	① 未来予想カード ② 自己評価カード

(9) 単元の評価の観点

- 地図を活用し適切なコースでルートマップを作成することができたか。(知識理解)
- 今まで気付かなかった地域の様子に気付き疑問点をもつことができたか。(社会認識)
- 調査学習を通じて地域の現状を理解し地域の抱える課題を把握することができたか。(社会認識)
- 学習課題を自ら発見し設定することができたか。(学習意欲・考察力)
- 学習課題の解決に必要な調査方法を選択することができたか。(学習方法)
- 地域調査(インタビュー)で適切な質問内容を考えることができたか。(課題理解)
- 地域調査(インタビュー)で予想回答と実際の回答の違いを把握できたか。(比較検討)
- 調査内容を様々な観点から整理・分析しまとめることができたか。(考察力)
- 学習のまとめでは、グラフ・表・図などの表現方法を適切に選択し表現することができたか。(学習方法)
- 地域に対する夢や希望(要望)や、また、未来像を考えることができたか。(行動力)
- 調査学習の内容を適切な方法で人に伝えることができたか。(学習方法・行動力)
- 他のグループの発表から新たな地域像を描くことができたか。(社会認識・理解力)

3 検証授業B

(1) 本項目「東京都」(6時間計画)

学習指導要領 大項目(2) 地域の規模に応じた調査

中項目 イ 都道府県

(2) 本項目設定の理由

自分の生活する地域に対する理解と関心を深めさせることや前項目の「身近な地域」との関連を図ることで、学び方の基礎をより一層効果的に培うことができること、また、学校における学習、生涯学習や今後の生徒の生活との一体化を考えると、社会生活の中で出会う都道府県の地域的特色をとらえる学び方や方法を身に付けることは、国土の地理的認識を深める上で大変意義深い。このようなことから、生徒が「自ら学び、考え、公正な判断力を身に付ける学習」として適切であり、本項目を設定した。

(3) 本項目の目標

- ① 地図・統計などの資料を活用し、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付ける。
- ② 地理的事象から課題を設定し、課題追究を通して主体的に取り組んでいく態度を育てる。
- ③ 地図・統計資料などを収集・処理して、考察し追究していく中で、総合的に地理的事象を見ることができる力を培う。

(4) 学習指導計画

- ① 東京都ってどのようなところ………1時間
- ② 昼夜間人口比率から読み取ろう………1時間
- ③ 「なぜ」を探ろう………2時間
- ④ 発表の準備をしよう………1時間
- ⑤ 発表し、深めよう………1時間(本時)

時	学習過程	学習目標と内容	学習活動・形態	指導と留意点	評価
1	課題の設定	学習テーマ 「東京都ってどのようなところ」 学習内容 ① 東京都をとらえるための学習の見通しをもつ ② 東京都のイメージ	・ ウェブページ法で東京都のイメージを書き出す ・ 資料集や統計資料を活用し、基域としての東京都の特色を考える (一斉学習)	・ この後の授業の見通しをもたせる ・ 身近な地域との関連を図らせる <方向性>	<関心・意欲・態度> ・ 東京都の特色を意欲的に考える <技能> ・ 資料集や統計資料から、基域としての東京都の特色を読み取ることができる (教師・ワークシート)

		③全国的な視野からみた東京都			
		学習目標 ➤ 東京都の特色を見つける			
2		学習内容 ①昼夜間人口比率からみた東京都の特色 ②分布図の作成 学習目標 ➤ 昼夜間の人口の変化からみた東京都の特色を理解する	・ 昼夜間人口比率の表から東京都をとらえる ・ 人口比率を地図に落とし、分布図を作成する (一斉学習)	・ 昼夜間人口比率を切り口として予想・仮説を設定させる ・ 見やすいように色分けさせる <方向性>	<関心・意欲・態度> ・ グループ内で、自分の考えを積極的に述べる ・ 課題設定に意欲的にかかわる (教師・発言内容) <表現・技能> ・ 白地図へ人口比率を落とすことができる (教師・ワークシート)
3	課題の追究	学習テーマ 「『なぜ』を探ろう」 学習内容 ①予想を立てる ②地域的特色をとらえるための追究 学習目標 ①予想を考える ②因果関係を追究し、地域的特色をとらえる	・ 自分、グループの予想を立てる ・ 因果関係を追究する ・ 資料から関連する事柄、特徴的な地理的事象を調査する ・ 予想、特徴的な事象、関連についてまとめる (グループ学習) ・ 東京都の人口統計資料を白地図に落としていく (個人学習)	・ 地域の環境条件、他地域との結び付き、地域で生活している人々の営み、人の動きについて記すようにする <方向性> ・ 理想の東京について記入するようにする <方向性>	<技能> ・ 的確な資料をもとに調査する <思考・判断> ・ 地域的特色を読み取る (教師・ワークシート) (生徒・自己評価)
4					
5	課題の発展	学習テーマ 「調べたことをまとめ、発表しよう」	・ 異なる東京を理解する (一斉授業)	・ ホームページの検索や自分の考えをもつ	<知識・理解> ・ 身近な地域と異なる地域の存在を理解する

6	学習内容 ①全域からみた東京都 ②発表の準備 学習目標 ▶ 異なる東京都に気付く	・ 発表の準備をする (グループ学習)	ことができない生徒にはヒントを与える ＜発見＞	(教師・ワークシート) ＜関心・意欲・態度＞ ・ 発表準備に積極的にかかわる (生徒・自己評価)
	学習内容 ①発表 学習目標 ①工夫して、分かりやすく発表する ②他のグループの発表を聞き、考えを深める ③発表を通し、地域への関心をさらに高める	・ ポスターセッション形式で発表する ・ 他のグループの発表を聞く (グループ学習)	・ 評価のポイントを明確にしておく ＜方向性＞ ＜深化＞ ・ 生徒同士の情報交換を行わせる ＜共有体験＞	＜表現＞ ・ 分かりやすく発表する (教師・発表内容) (生徒・自己評価) (生徒・相互評価) ＜思考・判断＞ ・ 他グループの発表から、東京都の特色を自分なりに深めることができる ＜関心・意欲・態度＞ ・ 地域への関心が高まる (教師・ワークシート) (生徒・自己評価)

＜方向性＞…学習活動の方向性を示す ＜深 化＞…学習活動を深める
 ＜発 見＞…つまづきを発見する ＜共有体験＞…情報交換などの共有体験をする
 (教師・ワークシート)…教師がワークシートにより評価をする
 (教師・発言内容)…教師が生徒の発言内容から評価をする
 (教師・発表内容)…教師が発表内容から評価をする
 (生徒・自己評価)…生徒に自己評価をさせる (生徒・相互評価)…生徒が相互評価を行う
 本項目の評価の観点

- ① 東京都の特色をとらえる視点や方法を身に付けることができたか
 ＜思考・判断＞＜表現・技能＞＜関心・意欲・態度＞
- ② 地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けることができたか
 ＜表現・技能＞
- ③ 核になる事象から追究することを通して、東京都という地域を総合的にとらえることができたか
 ＜思考・判断＞＜知識・理解＞

(5) 本時の目標

- ① 工夫して、分かりやすく発表する
- ② 他のグループの発表を聞き、考えを深める
- ③ 発表を通し、地域への関心をさらに高める

(6) 本時の指導展開

学習内容と目標	主な学習活動と形態	教師の支援	評価基準と方法
1 授業の見通し	1 指定された場所に集合する	〈方〉 ・事前に指定しておく ・諸注意 ・発表のマナー、聞くマナーを中心に話す ・評価のポイントを明確にしておく	
2 第1グループの発表 質疑・応答 ★工夫して、分かりやすく発表する ★他のグループの発表を聞き、考えを深める ★発表を通し、地域への関心をさらに高める 第2グループの発表 質疑・応答	2 ・第1グループが各班の発表をする ・第2グループは各班の発表を聞き、評価表にS/A/B/C/Dなどを記入する ・発表に対して聞き手は地域差などについて質問する ・第2グループが各班の発表をする ・聞き手の第1グループは、S/A/B/C/Dなどを評価表に記入する ・発表に対して聞き手は、未来像などについて	〈方・発〉 ・発表中に改善できる点は、その場で支援する 〈方〉 ・質問しやすい雰囲気をつくる 〈発・深・共〉 ・それぞれの生徒が自分なりの活動ができているか確認をする 〈方〉 ・グループの評価表や自己評価表への記入を促す	〈資〉 ・分かりやすい発表になっている (教師・発表内容) (生徒・自己評価) (生徒・相互評価) 〈関〉 ・グループの活動に積極的に参加している 〈関〉 ・発表を意欲的に聞いている 〈思・資・知〉 ・他のグループの発表を聞いて、自分たちとの違いに気付くことができる 〈思〉 ・他グループの発表から、東京都の特色を自分なりに深めることができる

3 教師の講評	て質問する ・自己評価表へ記入する 3 ・評価表の回収	<方> ・生徒の良さを中心に話す	<関> ・地域への関心が高まる (教師・ワークシート) (生徒・自己評価)
------------	--	---------------------	--

<方>…方向性

<発>…発 見

<資>…資料活用の表現・技能

<深>…深 化

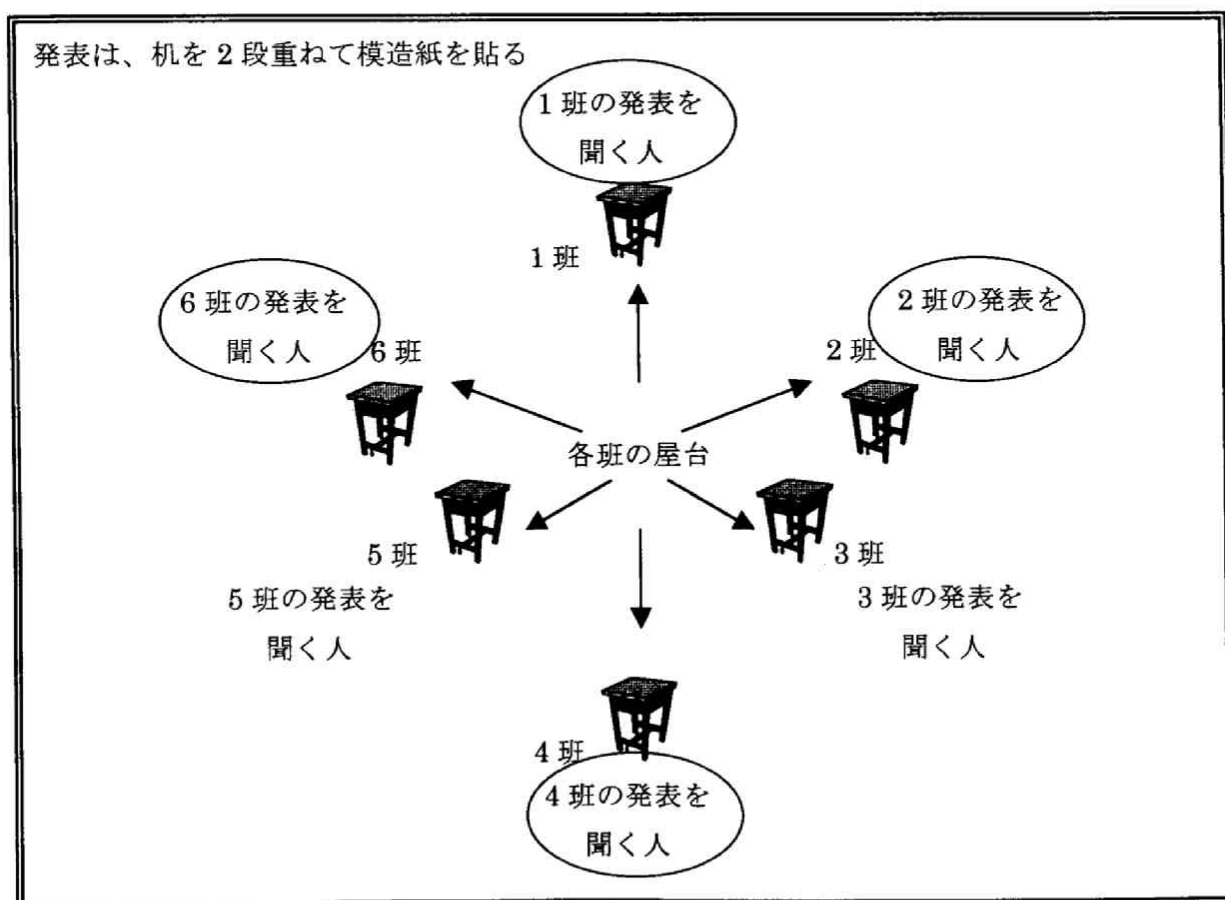
<共>…共有体験

<関>…関心・意欲・態度

<思>…思考・判断

<知>…知識・理解

会 場 図



(7) 本時の評価

- ① 発表を工夫し、分かりやすく発表することができたか <表現・技能>
- ② 他グループの発表から、東京都の特色を自分なりに深めることができたか <思考・判断>
- ③ 東京への関心をさらに高めようとすることができたか <関心・意欲・態度>

(8) 授業の考察

本項目では、東京都の昼夜間人口比率という特色ある地理的事象からその因果関係を追究し、他グループの発表を聞き互いに評価をすることで思考が深まり、公正な判断力の基礎が身に付くと考え、今年度の研究主題及び副主題に迫ろうとした。

① 生徒が主体的に学び考えていたか。

第1時に最終的に発表会を行うことを告げ、見通しをもたせられたことから、生徒は自分の発表を聞いてもらいたく、そのために意欲的に活動をしていた。データの中から何を選択するか、関連する事象をどのように扱うのか苦労をしながらも自ら考えるとともに、グループとしても考えていくことができた。

ポスターセッション形式での発表会を行ったが、ここでは生徒の調べた内容や考えた内容が「生きる場面」となっていた。前項目の「身近な地域」においても同様の発表会を行っていたことが反映されていた。

② 公正な判断力を身に付けることができたか。

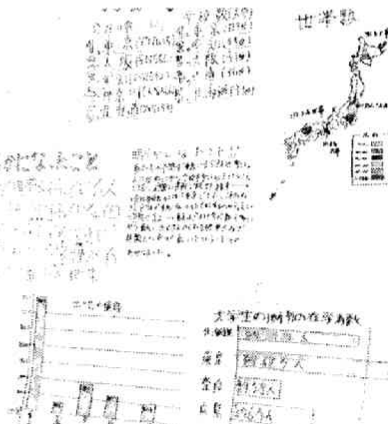
各グループともグループで選んだ資料の関連付けを行いながら、東京都をとらえようとする姿勢が見られた。また、全国的な視野から見た東京都という視点と、東京都の中の地域差という視点からも考えることができた。総合的に地理的事象をとらえようとしており、公正な判断力の基礎を身に付けることへ迫ることができた。

③ 工夫できる事柄には、どのようなことが挙げられるか。

因果関係を追究していく過程では、多くの生徒が戸惑いを示していた。グラフの書き方、読み取り方、まとめ方、調べ方などにおいて、教師の支援のあり方として更なる工夫が望まれる。あわせて、一人一人への学習の手立てへの配慮に対する工夫も望まれる。本授業では、単位の抜け落ちているグラフや読み取りの甘いものなどが見られた。資料に振り回されてしまっている部分も、残念ながら見られた。

他方、発表時の教師の支援としては、良い考察に対しての質問や言葉掛けなどが必要である。反対に、単純に導いてしまったときには指摘するといった支援が求められる。事前に生徒の疑問や考察を整理しておき、授業の中で生かしていくことへの工夫が必要である。

発表の指導や模造紙にまとめるときの指導については、「総合的な学習の時間」との関係を各校で工夫していくことが求められる。



4 地理的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

① 地理的な事象に対する関心を高める

「身近な地域」は生徒の日常の生活の舞台であり直接経験地域でもあるので、生徒の興味・関心が高いだろうと考えるのは早計である。あまりに身近すぎて新鮮味に欠けていたり、小学校で同様な調査を行っている場合もある。小学校の学習成果も踏まえながら、中学校段階での新しい視点からのとらえ方が必要である。そこで、本研究では、まず、野外観察を行わせ、観察項目についての分布図を作成させ、それぞれの分布図を重ね合わせたところから見えてくるものに気付かせた。その上で学習課題を設定させて調査させるという２段階の調査活動を行わせた。その結果、地理的事象に対する関心が高まっただけでなく、より深化したものになったと考える。

② 多面的・多角的な考察を通して公正な判断力を身に付けさせる

公正な判断力を身に付けさせるためには、生徒の主体的な学習が不可欠である。自ら課題を設定し、それを解決していこうとする自発的な活動の中でこそ判断力は培われていくと考えるからである。「学び方を学ぶ」学習は、この判断力が常に要求されてくる学習でもある。本研究では、「公正な判断力」の涵養という視点にたち、文献資料やインターネットの活用だけでなく、他地域との比較をさせたり、聞き取り調査なども重視した。多面的・多角的なとらえ方をするには、常に、情報の選択や精選も行っていく必要がある。その過程で「公正な判断力」が身に付いてくると考えた。

③ 調査発表会を通して、適切に表現する能力や態度を育てる

地域調査の結果は各課題ごとにまとめさせ、発表会という形式での報告会を実施した。まとめ方については、地図化やグラフ化などの地理的手法を使わせるだけでなく、調査の過程が分かるようにも留意させた。発表はポスターセッション形式で行った。この形式では、緊張しないためか発表者が生き生きしていたのが印象的であった。発表会の開催に当たっては、リハーサル等の十分な準備をしておく必要がある。

調査活動全体を通しての評価は、評価カードにより行った。自己評価だけでなく、発表会では生徒同士の相互評価も行わせ自己改善につなげられるような工夫をした。

(2) 今後の課題

一つ目は、「身近な地域」の学習をより大きな規模の地域の学習にどうつなげていくかという問題である。もちろん「学び方を学ぶ」という共通の観点はある。しかし、アプローチの方法が異なってくるのは当然である。教師の支援の工夫が

問われることになるであろう。二つ目は、「身近な地域」をなぜ学ばせるのかという目的の問題である。単に地域を詳しく知るためということではないと思う。教師自身がこの視点を常に押さえておかないと、調査することそれ自体が目的になってしまう。本研究では、発表会の最後に各生徒からの地域への提言を考えさせたが、内容的に深められなかった。三つ目は、他地域との比較をどのようにするかという問題である。地域的な特色をとらえるためには、異質な地域との比較がどうしても必要である。本研究では、5人の地理分科会研究員の所属校周辺地域の調査結果を比較検討することができたが、常に比較が可能かという疑問である。

IV 歴史的分野の研究内容

1 歴史的分野研究副主題及び副主題設定の理由

様々な角度から歴史をとらえることを通して、
生徒自らの歴史観を育てる学習指導の工夫

歴史というと、生徒たちにとっては「暗記物」というイメージが強い。年代と事項を機械的に覚えるだけでは、生徒自身の学習意欲は失われてしまうだろう。平成10年に出された教育課程審議会答申では、社会科に関する改善の基本方針として「網羅的で知識偏重の学習にならないようにする」と、今までの歴史学習への反省を促している。そして、「基礎的・基本的な内容の厳選」「自ら学ぶ」授業など主体的な学習を一層重視している。

歴史学習においては、一つの歴史的事象についての解釈のしかたや、資料の選択などによって歴史の見方は変わってくる。生徒が資料をもとにして、歴史的事象を様々な角度からとらえ解釈し、自分なりの歴史の見方、考え方を身に付けることが大切と考える。そのためには、教師が一方的に教え込むのではなく、自ら学び考えることができるような授業の工夫がのぞまれる。

また、歴史的事象を様々な資料をもとにして自分なりにとらえ、その他のいろいろな歴史の見方をつきあわせることによって、公正な判断力が身に付いていくと思われる。本研究においては外国人のゲストティーチャーを活用し、そのゲストティーチャーの話から、一つの歴史的事象に対する様々な見方があることを生徒たちが体験できる授業の実践を試みた。社会の変化が加速する中で、多くの歴史的事象を取捨選択し、時代や事象の関係や意味を問い、一つの全体像をつくりあげるための一つの視点、すなわち歴史観が大切であると考えた。

以上のことから、上記副主題を設定し、研究を進めることにした。

2. 検証授業

(1) 単元名 「日本の大陸侵略」 《新学習指導要領 (5)近現代の日本と世界》

(2) 単元設定の理由

新学習指導要領では、近現代史に重点が置かれている。生徒がより歴史を身近に感じられる学習が求められている。とかく歴史の授業は、過去の出来事を淡々と追っていくだけで、生徒は常に受け身になり、学習意欲はしだいに低くなってしまふ。そこで、歴史を単に過去の事とするのではなく、その時代の人々の立場になったり、同じ人間としてその時何を考え、何を感じたかを想像することによって、興味関心を高め「生きる力」となるヒントを見いだせるような授業を展開したいものである。

この単元では、日本が大きく国際舞台に進出し、世界の中で当時の日本人がどう生きていったかを考えさせ、またその後の歴史に大きな意味を与える重大な選択があったことに気づかせることで、自然と生徒が主体的な学習を行っていきけるのではないかと考えた。また、歴史が現代や未来に対して大きな影響を与えていることにも気づかせ、今現在を生きていることの意味を考えさせたい。

今回は、外国人をゲストティチャーとして授業に参加してもらうことにした。日本人とは異なった歴史観に触れることによって、生徒たちが、様々な見方や考え方があり、それをもとにどのような態度や行動をとればよいのかなど、学習が深まると考えられるので、この単元を設定した。

(3) 単元の目標

- ア. 日本が、近代国家の体裁を整え、欧米列強国と肩を並べるように帝国主義国となっていた過程を、国際関係との関連で理解させる。
- イ. 日本が、帝国主義国になる過程を多面的・多角的に調査、考察することにより、主体的に学習する態度を身に付けさせる。
- ウ. 調べ学習の発表を通して、侵略する側と侵略される側では、歴史の見方が違ってくることに気づかせ、歴史認識を高め、公正な判断力を養わせる。

(4) 学習指導計画(8時間扱い)

時	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
1	《導入》 学習課題への意識づけ	①1998年のサッカー・ワールドカップ、ブラジル対フランスの決勝戦のビデオを見る。 ②帝国主義のビデオを見る。 知識の確認・ワークシートを使用	・開会式の場面を見せ 試合内容等には、深入りはしない。 ・ビデオ「映像の世紀」

2	《展開1》 課題の決定	①前時のビデオを見た後のまとめに使ったワークシートの内容を発表する。 ②学習課題の説明を聞く。 ・課題について、生徒は興味や関心のあることを自由に発言する。 ③調べ学習の課題を決定する。 ・各班で話し合い決定する。 ・5つのテーマを5つの生活班で分担する。 1. 初期の議会と条約改正 2. 朝鮮侵略 3. 日清戦争 4. 日露戦争 5. 日本の産業革命	・帝国主義の概要やその時代の流れや背景を、生徒が理解できるよう指導する。 ・生徒の興味や関心のある発言を、今後の学習に役立てられるよう考慮する。
3 5	《展開2》 調べ学習	①各班で、決定したテーマを調べる。 ・調べる内容のポイントを、教師からアドバイスを受ける。 ②発表用にまとめる。 ・模造紙・OHP・自作プリント等	・生徒の抱く質問や興味、考えを大切にする。 ・教師の助言の内容については、必ず生徒自身の考えや意見をまとめに取り入れるよう指示する。 ・調べている時に適宜教師が助言する。
6 本 時	《展開3》 調べ学習の発表	① 2つの班の発表を行う。 ・朝鮮侵略 ・日清戦争の発表 ☆発表には、各班ともワークシートを準備する（まとめ用） ② ビデオによる、ゲストティーチャーの話を聞く。 ③ 意見交換を行う。 ④ まとめとして、ワークシートに記入する。	・ワークシートの内容については、必ず助言をする。 ・できるだけ多くの意見が出るよう、教師が導くようにする。
7	《展開3》 調べ学習の発表	① 3つの班の発表を行う。 ・初期の議会と条約改正 ・日露戦争 ・日本の産業革命	

		☆発表には、各班ともワークシートを準備する→まとめ用 ② 意見交換を行う。 ③ まとめとして、ワークシートに記入する。 ・ワークシートの内容を発表する。	・ワークシートの内容については、必ず助言をする。 ・できるだけ多くの意見が出るよう、教師が導くようにする。
8	《展開4》 まとめ	① 今回の調べ学習を終えての感想を書く。 ② 調べ学習の発表を通しての「日本の大陸侵略」のまとめの説明を聞く。	・第一次世界大戦につながる内容のまとめとする。

(5) 本時のねらいと展開

① 本時のねらい

ア. お互いに仕事を分担し協力して発表することができる。

イ. 自分たちが調べたテーマの歴史的事象について、各自が自分の考えや意見をもつことができる。

ウ. ゲストティーチャーの話を聞くなど、外国の立場の違った人の意見や考えを聞くことによって、歴史的事象に対して多面的・多角的な見方や考え方をもてるようにする。

② 本時の展開 (6/8時)

	学習内容	学 習 活 動	教 師 の 支 援	指導上の留意点
	導 入	アメリカのアフガニスタン空爆について考える。	・ 同じ行為でも立場が違うと、見方や考え方が違ってくことに気付かせる。	・ 空爆攻撃の内容には、深入りしないようにする。 ・ 国際社会における様々な考え方を説明する。
	調べ学習の発表	① 2つの班の発表を行う。 ・朝鮮侵略 ・日清戦争の発表 ☆ 発表には、各班ともまとめ用としてワークシートを準備する。 ② 発表の内容について	・ 各歴史的事象の内容、当時の世界的背景、戦争の原因、その影響について自分たちの考えや意見を発表できるよう、事前に指導、助言する。	・ 発表が分かりやすいようになるよう、模造紙やOHPなどにまとめるよう指導する。 ・ 各班が発表した内容等についての評価をする。

	の質問をする。 ③ ゲストティーチャーのビデオ(外国人2人)を見る。 ④ 教師の発問についての意見交換を行う。 ・ 各班ごとに集まって話し合う。 ・ 自分たちの意見をまとめ代表者が発表する。 ⑤ 自分たちが発表した内容や、意見交換についての教師の評価を聞く。 ⑥ まとめとして、ワークシートに記入する。 ・ ワークシートは、発表する班が作成する。	③ ゲストティーチャーのビデオ(外国人2人)を見る。 ④ 教師の発問についての意見交換を行う。 ・ 各班ごとに集まって話し合う。 ・ 自分たちの意見をまとめ代表者が発表する。 ⑤ 自分たちが発表した内容や、意見交換についての教師の評価を聞く。 ⑥ まとめとして、ワークシートに記入する。 ・ ワークシートは、発表する班が作成する。	・ 歴史的事象について、立場の違った人の意見を聞くことの大切さに触れる。 ・ (発問) 日本が大陸に勢力を伸ばしたことについて、どう考えるか。 ・ 意見が出やすいよう、また、討論が活発にできるよう、司会を教師が行う。 ・ 多面的・多角的な見方や考え方ができたかについて、触れる。 ・ ワークシートの内容は事前に確認し助言しておく。	・ ゲストティーチャーの意見については、深入りをしない。 ・ 教師が結論を出すのではなく、できるだけ生徒に様々な考えや意見を発言できるようにする。 ・ 時間的に余裕がない時は、次回に行う。
--	---	--	--	---

③ 評価の観点

ア. お互いに仕事を分担し協力して発表することができたか。

イ. 自分たちが調べたテーマの歴史的事象について、各自が自分の考えや意見をもつことができたか。

ウ. ゲストティーチャーの話を聞くなど、外国の違った立場の意見や考えを聞くことによって、歴史的事象に対して多面的・多角的な見方や考え方ができたか。

(6) 授業の考察

① 調べ学習について

自ら学び、考える観点から班ごとの調べ学習を行った。図書室や個人的にインターネットを使用しながら、4時間を使い組み立てた。あらかじめ用意した単元の中の5つのテーマを各班に配分した。生徒たちは意欲的に学習し、詳しく調べた上まよめのプリントを作成し、発表時に使用した。ただ、調べた内容の中で難解なものについては、完全に理解しきれていないというきらいがあった。基本的な事項、語句の確認や説明などが必要だろう。また、発表の仕方に工夫があるとよかった。内容が詳しく調べられていたので模造紙、掛け図の利用などが考えられると生徒により視覚的に事実を訴えることができ、よかったのではないと思われる。調べ学習は、発表と一体化して考えるべき、という指摘もあり、これから増えるであろう調べ学習の発表形態の工夫も今後考えるべき課題であろう。

② ゲストティーチャーの導入について

公正な判断力を育てるということから、多面的・多角的な学習が必要であると考え、近現代史の単元にゲストティーチャーの導入を考えた。今回は外国の人の話を聞くことにより、立場の違う人の意見を参考にするという試みをした。当日、ゲストティーチャーの都合がつかず、またビデオの準備も整わず、授業者が電話により質問した回答を生徒にプリントで紹介するという方法をとった。本校の外国語講師の回答であったので興味深く耳を傾けていたようである。今回は諸事情でできなかったが、実際授業に参加してもらったり、ビデオ、録音による伝達が効果的である。ただ、その際にどのような人選をするか、どのような話をしてもらうかなど、教材研究の重要性が指摘された。教師側の周到な準備が必要である。

③ 生徒の意見交換について

授業の後半は、班内での意見交換、それを受けての班長の発表であった。教師の方から、当時の人の立場で考えてみよう、というアドバイスがあったので、班内では、それに基づいて意見交換がなされた。発表時には、班長がよくまとめ班内の意見を紹介した。各班とも国内にもいろいろな立場でいろいろな考えがあったのではないかと、という意見がでた。この意見交換について、当時の人はどう思っていたか、という話し合いには、資料を解釈していくことが歴史であるので、この話し合いの前提となる事柄を教科書、資料集、教師手作りの資料などをもとに探させ、それを根拠に意見を出させるとよいとの指摘もあった。適切な資料を読ませながら、判断を引き出していくことが肝要であることを再認識した。

④ 今後に向けて

自ら学び、考えるために今後も調べ学習をはじめとした多様な形態を考えたい。ただその際、教師が発表形態を含め、いかに方向付けるかも今後の課題として残った。また、調べ学習や公正な判断力の育成の前提となる基礎・基本の在り方も模索したい。この定着が何より考えられねばならない。基礎・基本の範囲、調べ学習時の基礎・基本のおさえ、ワークシートの有効な活用など今後検討したい課題である。

3 歴史的分野の研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

① 身近な社会的事象を通じて、歴史に対する興味や関心を高める。

生徒自らが問題や課題を設定し積極的に情報を収集して、主体的に学習していくためには、まず、生徒の歴史に対する興味や関心を高めることが大切である。情報の氾濫する現代社会ではあるが、目を凝らし、教師が視野を広くもち、着眼点や発想を少し変えるだけで、生徒の興味や関心を引きつける社会的事象を見いだすことができる。

② 調べ学習を通じて、学び方を学び、発表の仕方を身に付ける。

調べ学習においては、すべての班が学校の図書室やコンピュータ室、地域の図書館などで、自分たちの興味や関心を生かし、教科書以外の資料を熱心に調べていた。調べ学習は生徒の主体的な学習を促す上で効果的であった。しかし、そこには生徒の抱く疑問や興味、考えなどを的確に把握する教師の助言が適宜必要である。調べ学習の発表は不慣れな点が目立ち、学習効果を十分に高めることは出来なかった。普段からこのような形態の授業を実践しておくことの大切さを痛感した。

③ 生徒自らが調べ考えた学習内容と外国人ゲストティーチャーの見方や考え方を比較することにより、歴史に対する公正な判断力を高める。

歴史の授業でよく陥りがちなことは、歴史の見方やとらえ方を、教師の歴史の見方やとらえ方で一方的に生徒に押しつけてしまうことである。このような授業では、生徒が興味や関心を膨らませることは難しく、主体的な学習に発展しにくい。今回の研究では生徒自らの興味・関心を生かした調べ学習をし、発表をしたあとに、まったく立場の違う外国人ゲストティーチャーの話を聞く機会を設けた。そして、そこから生まれる意見や考え方のずれや違いから、生徒に、歴史には様々な見方やとらえ方があることを理解させ、自分なりの歴史観を育てることをねらった。様々な角度から歴史をとらえることにおいて、外国人ゲストティーチャーの活用は効果的だったし、それは生徒自らの歴史観を育てるきっかけ作りにはなったと思う。しかし、ゲストティーチャーをより有効に活用するためには、どこの国の人で、どのような考えをもった人に来ていただくか、どのような質問をし、どのような話をしていただくかなど、事前に十分練って準備を整えておかないと、生徒自らの歴史観を育て、公正な判断力を身に付けることにつながらないことが分かった。

(2) 今後の課題

検証授業を終えて見えてきたことは、もう一度、教科指導の原点に立ち帰り、基礎・基本となる内容をきちんとおさえることの大切さであった。まず、基礎・基本となる内容を生徒がきちんと理解していなければ、調べ学習をしたとしても内容は深まらないし、ゲストティーチャーの話を聞いても、内容が理解できない恐れがある。公正な判断力を引き出すためにも、基礎・基本が重要である。また、今回の検証授業のような形式の授業でも、ワークシートを活用することで、全体の流れの中でスムーズに基礎・基本をきちんと理解させられるのではないかとことも見えてきた。基礎・基本をどう定着させるかが、今後の大きな課題である。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン